

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370102885		
法人名	(株)ベネッセスタイルケア		
事業所名	くらら門田屋敷		
所在地	岡山県岡山市中区門田屋敷3-5-20		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成31年3月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

1. ご入居者様の生活がその人らしく、個々の健康面に注視しながら気持ちを表出できる環境を大切にしております。またご本人が自らやりたいことをやりたいように出来る支援として今年度は自発支援の取り組みに力を入れました。  
 2. 地域交流を目的とした『認知症サポーター養成講座』『おだんごカフェ』『ハロウィン』『餅つき』等の開催、地域の中で防災に対しての連携、他介護保険施設との合同水害訓練を実施させて頂いています。  
 3. 自社の研修で「介護技術」「認知症ケア」「事故予防」「アクティビティ」「排泄や皮膚」「摂食嚥下」等の各研修へ参加して介護職員の育成、スキルアップ、やりがいやモチベーションの向上を図っております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

介護施設にとって緊張が春先まで続くこの季節は、恐怖と隣り合わせだ。まさにこの冬、インフルエンザに悩まされたと聞いた。幸いな事に大事には至らず、家族や関係者の支援やアドバイスで、なんとか難局を乗り切る事が出来た。今回の教訓を今後のホームの危機管理や運営に活かしていく決意を管理者から聞いた。職員は、管理者を軸として自分達で話し合っ決めて目標に向けて楽しく新しい試みを展開している。一人ひとりの職員が「地域交流につながる具体的なアイデア」を計画したり、日々変化する利用者が持っている本来の有り様をここで今具現したいと密かに実行してみる等、頼もしい風が吹き出している。新しく引き継いだ管理者のスタートは厳しい事もあるかもしれないが、前管理者や職員に助けられて前向きに頑張ろうとしている。今春職員体制その他の面でも変化があるかもしれないが、失敗を恐れず、常にポジティブ志向で前進して下さい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ベネッセスタイルケア宣言」の年1回研修を実施。「5つの行動宣言」「10の行動基準」にて自分が入りたいホームか、大切な人を任せられるホームか日々考えた行動をしております。今年度は会社として事故の再発防止、自発支援(認知症ケア)を深めていくことを目標とした取り組みを行っています。	グループホームとして県下でも早い1997年開設という老舗のこのホームは「第二の自宅と思っていただけるように」を大切に守り続け「その人らしさ・本人の思いを何より重視する」という心のケアを誠実に継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節による散歩や買い物、近隣施設様との合同水害訓練、毎年恒例であるホーム主催の餅つき会、町内の資源回収活動の毎月参加など定期的な交流がある。今年度は初めてハロウィンを開催し地域の子供さんの参加が多数あった。しかし日常生活の中で溶け込むような交流はまだ少ないと感じる。	前回ホームの目標について話し合った時、「地域との交流を大切に」という意見があり、「どうしたら地域の人や子供達の心を動かせるか?」を考え、色々な提案があり実行している。地域の方の反応もあり、来年度も続ける予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座『劇団おにぎり』の活動は2年目を迎え定期的とはいかないが、都度開催している。また今年度は認知症カフェとして『おだんごカフェ』の取り組みを始め、毎月開催している。参加者が少ない等の課題はあるが、担当メンバー丸となって地域貢献を目指そうと切磋琢磨している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎、年6回の計画にて関係者各位へ案内、実施しています。ご意見には都度対処して町内会の情報を受けて地域との連携に務めています。水害時のアドバイスや地域の方のご経験を含めて様々なお話ができる環境になっています。	町内会長・老人会会長・民生委員・利用者代表・平日の場合は市の担当者等の参加で、定期的に有意義な会を実施している。ホームからは種々の報告・参加者からは意見やアドバイスがあり、状況によっては協力・協働につながる事もある。	運営推進会議で参加者から「くらさんは玄関正面から見ると、なんか寂しいな」との感想があった。管理者はこの発言をヒントにして対策を考えていると言う。この例のように参加者の発言を今後も大切にしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市事業者指導課へは運営推進会議の案内、岡山市中区地域包括支援センターへはセミナー開催のご案内や運営推進会議の案内等で1~2ヶ月毎に連携をさせて頂いています。	今年7年ぶりに実地指導があり、特に災害関連の指導やアドバイスがあった。緊急に行動しなければならない時の指示や掲示の方法等、具体的な指導が参考になった。日常的な連絡は運営推進会議で、内容によっては法人が連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置して毎月1回、具体的な行為について振り返りを行い、議事録にて残している。また年1回ホーム研修を2回へ増やし実施しホーム全体で感度を高めて取り組んでいます。また毎月全スタッフに向けてセルフチェックを実施しています。	身体拘束につながるケアは全く無いが、事例検討として不具合が続いた時の対応・解除に向けての対応等、シミュレーションして学習している。また職員の発言や態度についても、不適切な事例は無かったか?等検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様の取り組みを実施。前月あがった議題や課題について必ず振り返りながら話し合いをするようにしている。また認知症の方へのケアのあり方をふまえて話し合うように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成見後見人制度につきましては玄関へパンフレットを置き、ご家族様へ活用出来る様案内をしており、活用の際にはサポートさせて頂いています。また、権利擁護に関してはスタッフに虐待防止の基準説明と合わせて簡単に説明はしていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お話を伺えるような環境と時間を作り、説明をさせて頂き、疑問点もお聞きするようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問の際にご家族様との会話の中からお要望や意見を出しやすい雰囲気作りに努めています。また、年1回、運営懇談会の際にアンケート調査を行いご意見を頂いた所は懇談会にて説明、次期運営計画としてあげていくようにしているが運営に関するご要望やご意見が上がりやすい環境づくりにもっと努めたい。	写真満載でコメント入りの「くらは便利」や家族がほっとするようなお便りで利用者の状況を家族に伝えている。家族もよく訪問して思う事を伝えて下さると聞いた。残念な事に昨年亡くなられた聾唖の方は、このホームのあるべき姿を多く伝えてくれた。	利用者本人や家族からの意見や思いの訴えの中で、個人的な内容があっても、ホーム全体に関わる内容についてはなかなか伝えられない。しかしこのホームでは意見を言われる事もあるとの事なので、このような貴重な意見を大切にしてください。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや様々なプロジェクト活動から個々の思いを共有するよう努めています。ホーム運営についてスタッフも関わる事ができる風土作りを心掛けているが、今年度はじっくり時間を掛けることができず慌しかったよう思います。	今年度が終わる頃、スタッフが意欲を持ってやりたい事・具体的に何をどうしたいか？等、グループを分けて話し合い、目標を設定し着実に実施している。職員同士は何でも言い合える仲になっており、今の状況を大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は西日本を拠点としているが日頃より相談できる環境であり、勤務状況も把握され、安心して働けるように努めている。又スタッフ個々の相談や面談にと努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にて認知症ケア、事故の再発防止、アクティビティ、製版一体、等多岐に亘り研修を受ける機会は多くあります。しかし社外の研修や勉強会へ参加する機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は少なく、近くの施設とは勉強会や季節行事、防災訓練等を通して交流を図っております。自社の他ホームとは合同アクティビティや季節行事・事例発表などを通じてサービス向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前のアセスメントの際にはご家族様やご本人様よりご入居後安心して継続した生活が出来る様お話を伺わせて頂いています。ご本人様の歴史、どのような人生を歩んで来られたかということも大切にしたいと考えます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居に至った経緯を伺いご家族様のご意見やご要望の把握に努め「安心して暮らしていく為には」についてお話をさせて頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントから見えてくるニーズを重点サービスとしてあげる事で個々に沿ったサービス利用を提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中の様々な場面の中で気持ちを共に共有する瞬間を大切にしたいと考えます。「何かをして差し上げる」のではなく、ご経験豊かな人生の大先輩に助けていただいたり、教えていただいたり、「〇〇さん、ありがとうございます」「素敵だな」と心から伝えられるような関係づくりを大切にしたいと考えます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の家族レターやくから便りで日常の生活を詳しくお伝えるだけではなく、ご家族のお気持ちをお支えするべくご本人様に深く寄り添うことを大切に考えます。「ここに来るとホッとします」「良かったねお父さん」と言って頂いた時、大変嬉しかった。しかしホームとしてまだまだ出来ることのあるのではないかと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームをベースに馴染みの方との時間を過ごして頂く場面の支援はあったがその方が行きたい場所、帰りたい処へ…という思いに応える機会を持ってませんでした。近隣のお散歩や買い物などで挨拶を交わす程度ではあるが社会的交流ができるように支援に努めています。	男性3名、女性6名の入所者には日頃から家族の面会もよくあり、奥さんが月2～3回は面会に来てくれ、野菜を差し入れてくれる人もいと聞いた。利用者同士、職員、ホームの協力医とも、すでに馴染みの関係が出来ており、相手を思いやり、いたわる姿が日常的にも見られ、良い関係性が生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフはご入居者様との関係性を把握して円満なコミュニケーションが図れるようにサポートさせて頂いている。ろう者の方のご入居があったことで様々な関係性が生まれました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	20周年の会では、ご参加やお祝いのお手紙など頂戴したり、以前ご入居されていた方のご家族とのご参加もあり、ご縁の大切さを改めて実感致しました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のご本人様との会話の中から、表情、行動又はご家族様からの情報をもとに本人様の現状を踏まえながら検討を行っております。また何気ない日常の中でもご本人の思う生活をお手伝いできるよう努めています。	手先が器用で、几帳面な性格のAさんは、何かを作るのが得意。そんなAさんの役割として町内の資源化物回収の梱包役を頼み、役割を持ってもらう事で、人の役に立ったという満足感や生きがいにつながっている。また、会話の中で「あったかいラーメン食べてえなあ〜」と何気なく言った利用者の言葉から、夕涼み会の時、実際に「夜鳴きラーメン」を呼んで実現させた事もあり、心のケアを実践している。	GHのあるべき姿を思い起こし、出来る事をやり続ける、支えるのがGHであり、一人ひとりの持っている力を伸ばすことが大切と、管理者からも聞かせてもらったが、本人の思いや希望をよく把握して、出来る限り思いを叶えてあげようと職員は頑張っている。この姿勢をこれからも大切にして下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴をご家族様からの情報を聴き取ります。またご本人の何気なくされた言動から新たな発見があったり、ご家族様が何気なく仰っていたことがご本人の行動と結びついたりすることがあり、ケアに繋がれたらと考えます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居前の生活リズムを踏まえた上で1日の生活のリズムや日々の心身の状態を見逃さないように記録し、共有に努めている。協力医、薬剤師・エリアの看護師、作業療法士、言語聴覚士、など他職種間の連携を多くありました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、チームミーティングや全体ミーティングにおいて検討・評価を行い、主治医又はご家族様へは電話や訪問の際にご相談させて頂きながらプランを作成している。	法人独自の様式、生活プラン(個別サービス)を使って、個々のニーズ(課題)を拾い出し、具体的なサービスに繋げている。「きらきらプラン」として、一人ひとりが自分らしく出来る事をやり続けて輝けるケア、プラン作りを目標として目指し、定期的に職員間で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りや口伝にて情報を共有しケアの変更を担当者を含めケアマネと連携を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と相談しながら出来る範囲で調整を行ない取り組ませて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中でスタッフは情報を提供して行きご本人様が望んだ暮らしが出来る様に支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医により週一回の訪問診療を実施している。かかりつけ医と協力医と共に連携を図りながら適切な医療が受けられる様に支援をしている。またエリア看護師の巡回や電話などで適宜相談できる環境になっています。	それぞれが希望する従来のかかりつけ医を受診しており、協力医の往診もある。2週間に1回の訪問歯科は口腔ケア等全員が利用しており、月1回の言語聴覚士訪問時には嚥下や口腔体操等の指導がある。西日本エリアの看護師も2ヶ月に1回程度は来所してくれ、医療と介護の連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関・各主治医の看護職員へ連絡をしてご入居者様の変化や気づきを相談し適切な受診や看護が受けられるように支援していますが、エリア看護師や他専門職の協働でさらに入居者様に安心した医療の提供を目指しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には主治医の紹介状と合わせて介護サマリを病院へ報告させて頂いています。入院中は他職種との合同カンファレンスに参加情報をご家族様と一緒に共有しています。備えては病院関係者との関係作りはしていません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医、ホームと、またエリアの医療連携室と連携して介護職員で出来る事出来ない事等、必要に応じて繰り返し話し合い看取りをさせて頂いております。ご家族様、ご本人様のお気持ちを一番に考えながら、スタッフの不安も解消できるよう看取りやグリーフケアの研修参加を実施しています。	7月にホームで看取りをしたBさんは、寂しがり屋で居室で一人過ごすのを嫌がり、最期までリビングに置かれたベッドで皆と共に過ごした。仲良しの利用者がいつも励ましの言葉をかけてくれ、生きようとする力を本人からも見る事が出来た。「良い看取りをした。看取りを通して職員も成長させてもらっている」と管理者から聞いた。最期まで心を込めた支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、年一回研修を行っています。マニュアルに沿って動けるように壁に掲示している。心肺蘇生・AED使用方法など年1回訓練を受けています。今年度は消防署での合同研修への参加もおこないました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(日中想定と夜間想定)へはセコムの担当職員を交えての地域関係者も参加して下さっている。また、他介護保険施設と合同で水害訓練を実施。地域の方との協力体制づくりに努力しています。	毎年恒例の水害を想定した合同訓練では、通年は近くのケアハウスの2階へ避難していたが、今年は豪雨災害を受け、想定外を予想して3階への避難を実施した。また消防訓練では、通報訓練・避難経路の確認・安全確認した後、利用者も一緒に外で消火器訓練を行った。	災害時の避難経路が以前は1ヶ所だったが、複数の場所から避難出来るように改善し、職員が共有しやすいようによく分かる場所に掲示をしたと聞いた。「命を守る」事を最優先に、これからは運営推進会議や職員間で大いに話し合ってください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護」基準を読み合わせを行い、イーラーニングテストなど受けている事で日々のケアにおいての一人一人に対するの関わりについて確認をしています。身体拘束廃止・虐待防止委員会の中でも話し合っています。	各居室にトイレと洗面台が設置されているので、プライバシーや羞恥心にはきちんと対応出来ており、トイレのドアの開閉や食事介助時の声かけ等にも気をつけている。また、呼称についても一人ひとりを尊重して「〇〇さん」と呼び、経験豊かな人生の先輩として敬う対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自発的な心の動きに注目した支援とは何か、どのようにアプローチすれば良いか取り組みを実施しました。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「先回りをした支援」「業務を優先した支援」にならないためにどう取り組んでいくかを考える一年でした。(自発支援)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意向を伺いながら保清と気候に合わせた服装の提案をしていき支援をさせて頂いています。月1回訪問理美容あり。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様が自分の役割として取り組めるよう、お声かけをさせて頂いております。お一人お一人の心のタイミングを大切しながらお誘いしています。畑で収穫したもの、季節を感じられるものを調理して食べる、ささやかですが当たり前の食卓をめざしています。回数は少なく感じています。	食事は法人の系列会社から配達しており、普通・刻み・ソフト食等の状態で来るが、主食のご飯はホームで炊いている。介助が必要な人もいるが、自力摂取の人が殆どで、箸やスプーンでゆっくり自分のペースで食べていた。おやつ作りは利用者と一緒にしており、お手伝いの様子が写真から確認出来た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事は記録し、嗜好によりお食事が摂れない場合は補食を用意したりとしています。水分補給は不足しないように注意はしています。水分量の把握の必要な方は記録に記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの声かけと共に歯みがきを含めた口腔ケアのお手伝いをさせて頂いたり、また毎月の訪問歯科の際、お一人一人に対するの口腔ケア方法を指導、助言していただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の表情や行動を読み取りお声掛けを行うと共に定時誘導にてトイレに座る習慣をつけてご本人のタイミングを大切にしながら排泄を促がす支援を行っています。適切なパット、オムツ選びについて取り組みました。	殆どの方が紙パンツやパット使用であり、排泄が自立で布パンツで過ごしている人は少ない。夜のみ紙おむつの人は3名、各部屋にトイレが設置されているので尿意のある人は夜間も自分でトイレに行っている。おむつや紙パンツ・パットの性能や使用方法について職員間で勉強している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人様の排便状況を把握し水分補給やお食事量、服薬等を見ながら運動を促したり、飲み物や食品に配慮はしている。手作りヨーグルト・きな粉など。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるがご本人様の意向をお聞きしてから意に添うように案内をさせて頂いています。(入浴前の健康チェック(発熱や血圧)で入浴出来ない事もあります)また、ご家族様のご意向も取り入れて支援させて頂いています。	入浴介助をしていた職員が利用者の乳房の異常に気付き、即入院、手術を経て現在は元気に暮らしている例もあり、主治医からも「よく見つけたねえ」と言われたと聞いた。週2~3回を基本とし、シャワー浴4名。浴槽に入る人は5名。時間的、リズム的にも本人の意向を大切にしており、時には柚子湯等で楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居前の生活パターンを崩すことなく又生活のリズムをつけて暮らす事で眠れる様に支援している。眠剤の服用には主治医・ご家族様やご本人様と相談しながら個々に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病状や処方内容を理解しており、症状の変化等ないか日々確認に努めている。又、服薬支援では誤薬の防止に与薬手順を決めている。薬剤師さんからの指導、助言を適宜受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「役割」が楽しみや満足感に繋がるような支援が大切と考えます。心からの感謝や喜びをお伝えすることでご本人の心身の充実につながるのではないかと思います。ゲームや運動で心地良い競争心の芽生えがリフレッシュになる場面もありました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年恒例であった岡山の花火大会が中止になり残念でした。道の駅や後楽園へ出掛けましたが今年度は外出の機会が例年に比べ少なかった。敷地内の落ち葉の掃き掃除、野菜作り、草抜き、洗濯を干すなどの活動を日々の中でご本人様の状況を伺い、支援をしております。	今年の冬は感染症に悩まされ、思うような外出が十分出来なかったという事はあったが、時候の良い時には総社方面へ外出したり、ドライブ等をして楽しんでいる。日常的には畑作りや花の水やり等も兼ねて日光浴や外気浴をしたり、天気の良い日は散歩に出かけて気分転換をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金をホームで管理させて頂いているが、受診や買い物の際にご自分でお金を支払ったり診察券を機械に入れたりする場面を大切にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて支援を行いたいと考えるが、今年はその機会がありませんでした。『機会を作る』という支援をおこないたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者の安全性を考慮して季節を感じていただける様、また居心地よく過せるように配慮している。またご入居者様と一緒に作り上げることを大切にしています。	リビングにはテーブル、イス、ソファ、ベッド等が適度に配置され、自分の寛ぎのスペースをそれぞれ確保している。リビングからよく見える庭には畑や花壇があり、作物や咲いている花からも季節を感じられる。曜日によって歌や脳トレ、作品制作等のアクティビティをしており、落ち着いた環境で楽しく生活している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席が一応決められていて気のあった馴染みの関係性が出来上がっている。またご自身のパーソナルスペースも大切にしつつ時にはいつもと違った空間で過ごしたり、その時々で臨機応変な対応をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し安全に配慮しながら馴染みの家具や生活用品を持ち込まれて工夫をしているが認知症状により生活用品を置かない方が良くもおられます。	畳に障子の和風の部屋とフローリングにカーテンの洋風の部屋があるが、その人の症状や状態により、シンプルにしたり、家族と相談して畳にマットレスを敷いて自由に動ける配慮をしたりしている。お気に入りの家具や調度品を置いて、家族の写真や塗り絵・習字等を飾り、その人らしい居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部は皆さんが馴染んだ生活空間をあまり変化を付けずにシンプルにしています。居室では皆さんが混乱を招かないように物の位置に配慮しています。		